共古日錄 十八

特別
15
1413
20

門 15
號 1413
卷 20

早稲田大學圖書
昭25.10.24
購入

初午考

英古日錄

十八

稲荷祭りと為すを法とともに初午と二月の初午日を稲荷祭りと為すを法とし二月の初の午の日を初午とするは如何故に正月の初の午を初午とせずして二月の初午とするや初の卯を初午と為すに初宣旨などの神祭りの正月とまたは二月の稲荷祭りと為すと一説に稲荷山の神が此日出現あり日のと考ふるに正月ふまる餘年の惡事を惡馬と為すに二月の馬と惡とに通ずるを以て馬の通用と為す馬の通用と為すの日を午の日と為すと初午とまたは稲荷祭りと為すと信せらるる事なるべし

清水

共古日錄 第六
於八日出來
昭二年 十月 十三日 記

偽書の後刻記

世書松西舎之一冊刊記
明暦二年迄著の書と

偽書後刻記

世書と偽書あるべく詐せる徒が馬の達用と初めの日迄
馬の為に薬を形勢せるを初年とは年の日いあるべ馬を達用し
しもるを初年と為し二月の日を二月初年とせるらんと
思ふ

當世名家詩刻記　慣免屠人西放火抵
文保丑甲午夏　犯聖豊人こそ
當世の書を後刻せし書こそ
三都流行　寛延四年三冊　里志　博士
世書松西舎之一冊刊記
明暦二年迄著の書と

弥賀のと思ふ

抹茶吉之一碑を義する社碑に同毋生なる高陽子あるに
時為物有聲なる人の生なる者あり
蒙古館内の磚石なりし物の産に社碑あるは者あり
蒙人いもと肥物平戸以南
館あるに長崎に移せる時磚石の移せるものと

是為沖縄最古之碑文矣

載今閲之沖縄古文書三百年前薩人所為

明治十三年四月　董記

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白石此備了
弥社

と大なる陽形を造りしものあり其中に神輿を置くものあり建物あるを箱とし石の陽形の表なるあり形いまだ無し紀州のみに見るし白色なる石の如見るれども無きを拾ふ石の重みあるもの
ながミ所とする石にはもちろん此の山に出ずして外地より来る此石を弥社に用ひこれ
弥社に用ひ其外に用ひ
ものなり
磯倍の弘者菜の中に同じ其外地蟹人
一説の人は琉球人と云ふ此蟹人
言語は山流下流との別異なれども言語
琉球人の色一種の色あるいはなほ琉球中にもある者あり
の色は琉球中の生血を混交して

以琉球に同じ元年三月薩摩藩に命じ用の者
殺せしめられし者に同じ
又南に琉球の武士に弱し
殺害し
琉球人
生の人
ミミジン
ミミジン
白石此備了
弥社
何歟一説即多乳村
白石なる者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

トフビウ渡し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

笑話本ニ載セル越の話

安永二年出板初編の笑話本抜萃

四文銭

あるとしあるとしのとしせにふいひつけてみせくみつはそふまやそろふるをどりていしの日ぐるあとよりむろいふのはりれいふのよりあるとしてそしてていしのかのを今うでどうしつてのちつとあるあるとあるを柄ひつそのうをあるくるを大ぐわうめイエどうはあるいてもつりがござるまやぬ

安永二年出板の笑話近日発売

銭同士

銭や者会ねんと云よりうあ知れうあくのうんとつうるめ沢その近ぢ先ちい思ぢもさんせんせちぐねふん高でいつくら遠るのつ言どもうしさらつてるぬ〜ツクわるさ言めのくらしさらぶのうさるのかけがあ者花のあ者の居ヲ遠つてうまるいつてを

弧内者

銭や者会ねんと云よりうあ知れうあくのうんとつうるめ沢その近ぢ先ちい思ぢもさんせんせちぐねふん高でいつくら遠るのつ言どもうしさらつてるぬ〜ツクわるさ言めのくらしさらぶのうさるのかけがあ者花のあ者の居ヲ遠つてうまるいつてを

弧内者

銭ぢ者会ねんと云よりうあ知れうあくのうんとつうるめ沢その近ぢ先ちい思ぢもさんせんせちぐねふん高でいつくら遠るのつ言どもうしさらつてるぬ〜ツクわるさ言めのくらしさらぶのうさるのかけがあ者花のあ者の居ヲ遠つてうまるいつてを

越の西とらてる

銭ぢもうせんいふ今でのうちと越の西とらてる

一夏せんいふ西の戸ゥ西水ぶりるるぶ粕与銭殿

せちこうづきもい幕のわのうてるの関ちりるるひ内じゃ

ちるるるひぬい死山ゥおあぶ名ゥのちゥるるまぶんこう

年ぶ者ッていちと文まるるぬ

親言

大ゥのちゥのんぶゥ者言

行ゲけヨまぶゥるんさんぶ者ぬ

[illegible]

元文の頃[illegible]二冊中銭[illegible]
年に[illegible]銭の[illegible]
通用の[illegible]
い[illegible]銭相場四文銭の方[illegible]
[illegible]とも[illegible]つり（[illegible]）が[illegible]
其[illegible]の[illegible]相場の[illegible]
解せ[illegible]ゾ[illegible]い銭
[illegible]銭と同[illegible]通用せ[illegible]
[illegible]の[illegible]
の意[illegible]

の[illegible]
[illegible]当[illegible]
[illegible]
恵にあ[illegible]
饅[illegible]の恵[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初到座篆の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]年間の和歌集なり[illegible]
[illegible]元禄九年の譜[illegible]
[illegible]

[illegible]の和歌の前がきに[illegible]
[illegible]
[illegible]元禄四年なれば[illegible]
同書の元禄十年の[illegible]
一[illegible]
[illegible]年の歌[illegible]
大[illegible]

[illegible]男に三枚あり
及一枚女[illegible]
[illegible]あり

一、戒男[illegible]三枚あり[illegible]大枚[illegible]
挿畫[illegible]枚[illegible]
紙を二段に割し上段[illegible]
宣の畫[illegible]
又一枚女[illegible]
[illegible]
しかし[illegible]

子の日のこと

子の日まいり[illegible]
[illegible]
[illegible]
國音の通[illegible]

初子

初夢

初も

月と子の日あり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文久永寶の事

文久永寶の事、行草の筆者傳はらず、これが是なるべしとの説あり、川北朝鄰翁の云、宝永春山獄後の筆

野つぼ郷女郎の郷里

野つぼ郷女郎の郷里、なる野つぼ小類小田原柳所の所在、生れいづる所、蒲田村朝日村の薄野里、忠義の娘なりとぞ

芭蕉の句碑

芭蕉の句碑、弱が詠みしままこと言葉遣ひにて、秋風一つあるに一句意味あるもの、其第一つまるものが遠嘗なる、鎌倉、みの国木曾、ありと古歌の国、深川の古跡のものにて、くくかなと思ひて、俳句に一番第一番句多き第なり

俳句と香第

俳句と香第、説ありなれども、弱の

抜梅

抜梅、抜梅の紅葉、蔦の紅葉、其の主用意なるも、高せの高せ、抜梅の色、抜梅の色、抜梅の色

礼せり 法

ドラシテ九両三分二朱

[illegible]

牛頭牛馬の
[illegible]

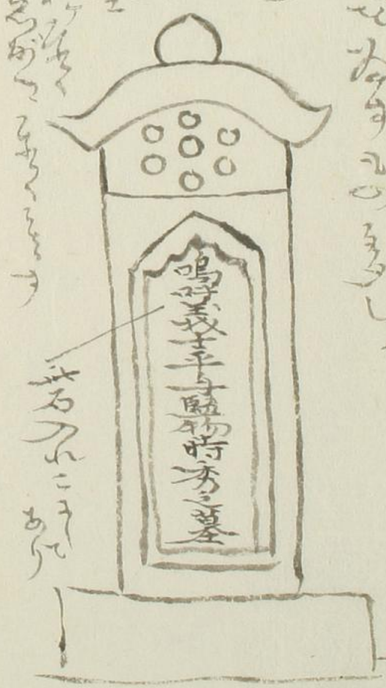
[illegible]

[illegible]

宮崎屋敷の鶴馬二ツ有之

平与駿物の墓

宮崎の墓本



[illegible]

慶長十三年極月[illegible]

[illegible]

元亀三年十月廿[illegible]

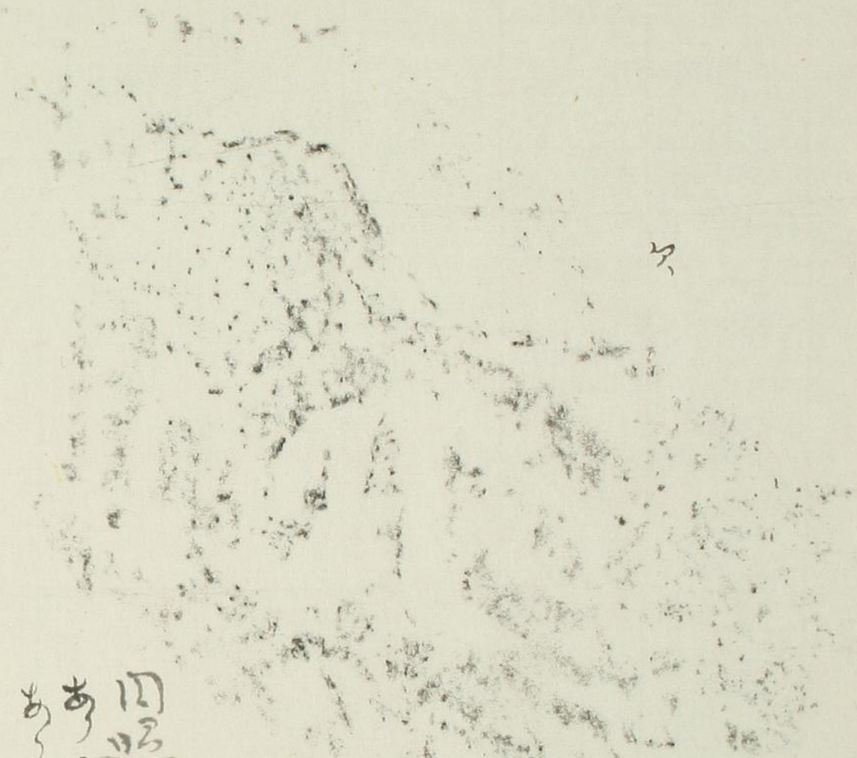
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]三尊種子[illegible]
[illegible]左の方の一[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

同[illegible]寺墓地[illegible]寛永の五輪塔
あり鐘に寛政二[illegible]八月[illegible]
あり

大久保力[illegible]
の庚申塔

[illegible]大久保[illegible]
庚申塔の石[illegible]弥連の磨滅[illegible]
に享和元年[illegible]月廿日の[illegible]あり

[illegible]大久保右[illegible]角にある庚申塔
○大久保七[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]大久保三[illegible]
[illegible]磨滅[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]大明神[illegible]
[illegible]三[illegible]
[illegible]東に面して庚申塔[illegible]

鏡大明神の石燈籠及狛犬並石

鏡大明神の社前石燈籠一基

奉造立供養石燈籠一基

元禄二巳年

二世大願成就

廣甫

の銘 草也行方

武州豊島郡 柳木村

奉造立燈籠 廣甫供養成就所

元禄五壬申年 九月吉日

敬白

川井左衛門尉定吉

左右前立ちて 石の犬あり 其形

石形の狛犬あり 其形 古拙の面 面白き 古雅なる

十一月 享保

十一月 享保

二年の文字

見め草也

足元の方 見ず

又也四畳半の五輪の塔 平物 平の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初鰹の祝儀如先前相勤る中小幸

[illegible]が殿の祝儀の為[illegible]

明和五年五月吉日　春井[illegible]

[illegible]

明和五年の[illegible]

長崎の[illegible]戦の進発の時

慶應元年の[illegible]

慶應元年弘化[illegible]の進発下からよめばかけとろこと

おけとき指置のおけそ　止めよとろ也年弘化[illegible]

明治三十八年八月十三日吉原京町新萬楼婦妓あぢぬ

岸名中妓[illegible]重自由慶業[illegible]

業の為初[illegible]

慶の[illegible]戦[illegible]

自由慶業婦妓の始

[illegible]し餅

[illegible]

[illegible]

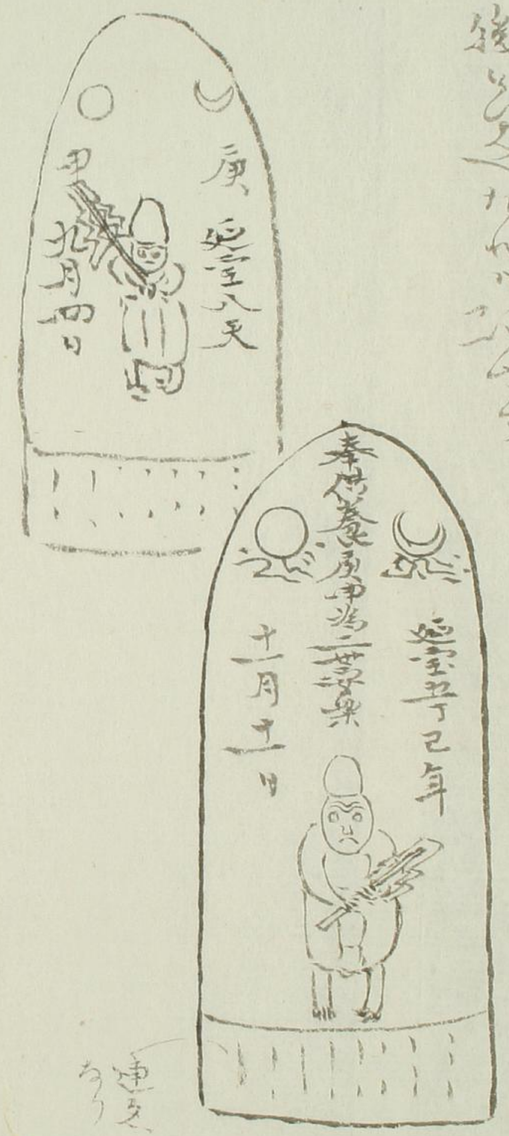
[illegible]

[illegible]

十三年[illegible]

[illegible]

[illegible]


庚申供養
延宝八年
九月四日
奉供養庚申塔二基
延宝五丁巳年
十一月十一日

庚申供養現世
天和二年

日勢国名経の出文

日勢コツダとコンダとあり

寛文拾四年光綱

元禄以来[illegible]所刻[illegible]板行[illegible]

伯勢山の[illegible]山より経[illegible]

[illegible]所[illegible]と[illegible]二[illegible]

[illegible]の[illegible]

伯勢[illegible]和田[illegible]

[illegible]山の[illegible]近の[illegible]和田さ[illegible]コンダと[illegible]

日光山の[illegible]

下野国日光山[illegible]寛文十[illegible]二月吉日板本[illegible]寺

[illegible]国が日光山の[illegible]

三原文と[illegible]の書[illegible]板

三原文と[illegible]国[illegible]の画[illegible]春画[illegible]歌の画[illegible]と

[illegible]相生原文　今様原文　娯集錦清の三[illegible]

[illegible]数[illegible]板せる者[illegible]

著[illegible]文[illegible]画[illegible]名[illegible]異名[illegible]

[illegible]

夢の浮橋　画[illegible]鶯泉[illegible]

年北春　画[illegible]

[illegible]歌[illegible]画[illegible]

イヂプト文字の印印あり

[illegible]代春の画板者[illegible]梅[illegible]樹[illegible]

王の杯　前線[illegible]文板の[illegible]

男色の包紙

二月の花紙袋

○高潮の臨時號の出版は、高砂の謡曲

[illegible]

二月の花の袋の

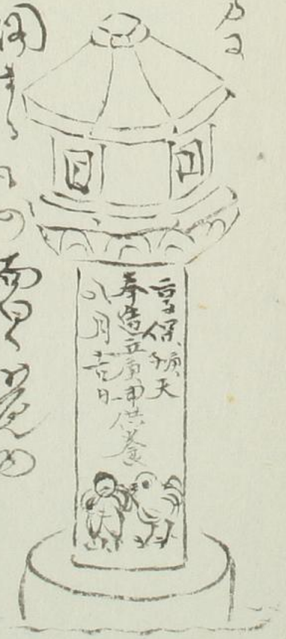
二月の花の袋の

[illegible]

戸市供養の石碑

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

墓碑考弁並解

墓碑考、伏見米谷元思撰補、二下二冊、墓文碑の拓本にて碑文あり、文政二年の拓本にて碑文あり、文政二年の拓本にて碑文あり、文政二年

此名ハ[illegible]ハ[illegible]中心と[illegible]て四瓣に赤及ある青ハあ
り黒あり白色あり弱く黄ばみもあるもあり
一説ハ二種中ハ二、半木とハ二つの名木あるべ
今ハ一本ハ[illegible]王楊の[illegible]名さもなくの[illegible]
馬文耕が思ふ[illegible]物語に出三年前にハ戸中迄も[illegible]
所辺の二[illegible]に行通ひ[illegible]
[illegible]菊と特[illegible]
[illegible]菊も[illegible]
[illegible]用ひ[illegible]
[illegible]柄菊[illegible]

先中の句にハ[illegible]菊の花ハ[illegible]
句句と[illegible]句菊かるハ二種中の[illegible]
と書し[illegible]柄菊[illegible]
[illegible]菊の[illegible]
[illegible]柄菊[illegible]
[illegible]柄菊[illegible]
[illegible]柄菊の句[illegible]
[illegible]柄菊の句[illegible]
[illegible]句[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

墓碑考

[illegible]

[illegible]

[illegible]

子之愛豐碑謂候桓楹本文二碑士無碑

封禪見前記曰秦刻碑頌德漢興禮記曰公室視豐碑三家桓楹

碑所以繫牲牲視日晷禮記曰公室視豐碑三家桓楹

天子諸侯葬時下棺之柱其上有孔以貫繩索懸棺

而下取其安審事畢因閉諸中庭子或書名文勳伐

於碑上後又立之隱曰故謂之神道言神靈之道也

古碑上往往有孔是貫繩之處前漢碑甚少後漢漸

巡崔瑗之徒多爲之立碑

事祖廣記曰管子曰無憶父封泰山刻石紀功秦漢

以來如謂刻石曰碑蓋因悪禮豐碑之制也刻石當

以無憶爲始而名爲自秦漢也○古之葬有豐碑以

窆秦漢以來死有功德者皆碑之稱故用

石因總稱之碑

黃公紹韻會舉要曰碑所立豐石紀功德於石耳聲

徐曰案古宗廟立碑以繫牲耳後人因於其上紀功

德此碑字施石秦以來制也七十二家封禪勒石不

言碑七十二家封禪之言始於管仲不言碑穆天子

傳乃爲名迹於命茲石上亦不言碑也銘勒功德當

始於宗廟麗牲之碑也祭義言麗于碑士喪禮聘禮

入門當碑揖則大文士廟內皆有紹鄉飲酒鄉射三揖注云三揖者將進揖當陳揖當碑揖則庠序之內皆有碑碑所以識日景觀碑景邪正以知爲晚宮廟用石爲之華碑取懸繩繹暫時往來運載當用木而已

劉熙釋名曰碑被也此本王莽時所設也施其轆轤以繩被其上以引棺也臣子追述君父之功美以書其上後人因焉故無建於道陌之頭顯見之處名其文就謂之碑

陸機蒙求傳叢書曰碑悲也古者懸而窆用木書之以表其功德因留之不忍去碑之名由是而得自秦以降生有功德政事者亦碑之而又易之以石失其稱矣此亦德政有碑之起也

劉勰文心雕龍曰碑者埤也上古帝王始號封禪樹石埤岳故曰碑也周穆紀迹於弇山之石亦石碑之貴也又宗廟有碑樹之兩楹事止麗牲未勒勳績而庸器衛闕故後代用碑以石代金同乎不朽自魏祖墳犢封墓也

張表臣珊瑚鉤詩話曰碑者披列事功而載之金石也

恒文 按碑本左宮廟所以麗牲及視日景則以上四說皆不可取也碑从石卑聲謂立石之卑也蓋其高不過于牲身耳陣埤皆有卑意可以推知

孫何碑解曰碑非文章之名也蓋後人假以載其銘耳銘之不能盡者復前之以序而編錄者通謂之文斯失矣陸機曰碑披文而相質則本末無據焉銘之所始蓋始於詩揆稱老稱述器用因其鐫刻而垂乎鑒誡也銘之於量者曰量銘斯可也謂其文爲量不可也銘之於鐘曰鐘銘斯可矣謂其文爲鐘不可也銘之於鼎者曰鼎銘斯可矣謂其文爲鼎不可也古者盤盂几杖皆有銘就而稱之曰盤銘盂銘几銘杖銘則無幾乎正若指其文曰盤曰盂曰几曰杖則三又童子皆將笑之今人之爲碑亦猶是矣夫下皆鐘乎失故裘不知其非也蔡邕有黃鉞銘不謂其文爲黃鉞也崔瑗有座右銘不謂其文爲座右也古之所謂碑者乃蔡祭饗禱之際所植一木耳而其字從石者將取其堅且久乎然未聞勒銘於上者也今惡葬令甚嬉首龜趺洎文足品秩之制又易之以石者後儒所增耳堯舜夏商周之盛六經所載皆

無刻石之事管子稱無懷氏封泰山刻石紀功者也
自寓言不足傳信又世稱周置土蒐于岐陽命從臣
刻石今謂之石鼓或曰獵碣洎延陵墓表俚俗目爲
夫子十字碑者其事皆不經見吾無取焉司馬遷著
始皇本紀者其登嶧山上會稽甚詳正言刻石頌德
或曰立石紀頌亦無勒碑之說今或謂之嶧山碑者
乃野人之言耳漢班固有泗水亭長碑之蔡邕有郭
有道陳太丘碑文其文皆有序冠篇末則亂之以銘
未嘗斥碑之材而爲文章之名也殷士衡未知何從
而得之由魏而迄平李唐立碑者不可勝數大抵皆

約班蔡而爲者也雖失聖人述作之意然猶髣髴乎
古迨李翺爲高愈女碑羅隱爲三叔碑梅先生碑則
所謂序與銘皆混而不分集列其目亦不復曰文考
其實文未嘗勒之於石是直以繞紳麗性之具而名
其文反執其要復古之事不當如此貽誤千載賊機
之由今之人爲文掄揚前哲謂之贊可也警策官守
謂之箴可也祼獻宗廟謂之頌可也陶冶性情謂之
歌詩可也何必區區於不經之題而專以碑爲也設
若依違時尚不欲全廢乎說說者則如班蔡之作存
序與銘通謂之文亦其次也

神道

吳曾能改齋漫錄曰葬者墓道稱神道自漢已然引襄陽耆舊傳光武五蘇嶺祠刻二石鹿於神道揚雄碑前趙太尉揚公神道碑銘爲鑿非也漢書高惠文功臣表戚圉侯季信成坐爲太常縱丞相侵神道爲隸臣霍光傳光薨光吏人爲大其塋制起三出闕築神道此二事皆在前當以爲據蓋不始於後漢但表所謂神道疑宗廟之路也

程大昌演繁露曰李廣傳丞相李蔡得賜冢地盜取三頃賣之又盜取神道外壖地一畝葬其中世之言神道者始此又霍光傳塋起三出闕築神道言神行之道也

陳思寶刻叢編曰漢蜀郡屬國都尉王君神道在南陽題云漢故蜀郡屬國都尉王君神道封陶深鄧道元注水經淯水南道側有二石樓制作精妙題云蜀郡太守姓王字雅子南陽西鄂人

漢太尉劉寬神道有二其一曰漢太尉劉公諱寬字文饒其一曰漢太尉車騎將軍特進昭烈侯劉公神道各有二螭螭屬于其上而下作獸面如彝鼎間鑿之象當是雙闕所刻圖畫微拙不及王雅子沈新

豐之精也

洪适隸釋曰文祉都尉沈君二神道

華祖廣記曰晉宋之世始又有神道碑天子及諸侯皆有之（其刻文止曰某帝或某官神道之碑今世尚有宋文帝神道墨本也其初由立之於華北之東南地理家以東南爲神道故以名碑爾案後漢中山簡王薨詔爲之修冢塋開神道注云墓前開道建石柱以爲標謂之神道是則神道之名有漢已有之也晉宋之後易以碑刻云）

歐陽修集古錄曰宋文帝神道碑題曰太祖文皇帝之神道八大字而別無文辭惟以此爲表識古人刻碑正當如此而後世鐫刻功德爵里世系唯恐不詳然自後漢以來門生故吏多相與立碑頌德矣予家集古所錄三代以來鐘鼎彝盤銘刻備有至後漢以後始有碑文欲求前漢時碑碣卒不可得是則冢墓碑自後漢以來始有也

徐乾學讀禮通考曰案霍光墓祭神道蜀郡太守王稚子太尉劉文饒並有神道非始於後漢晉宋之世蓋自漢以後一命而上稍有聲績者其沒也無不立碑著神道與闕亦不論官階其式多不相同有單有穿單或三四重而穿則一首跂兩旁或刻入物麟鳳龜龍及諸圭璧珍寶之形窮工極巧（寅按洪适隸續有石闕圖形與碑同）

張敦頤六朝事迹曰梁莫平忠侯蕭景墓石柱一題
云梁故侍中中撫將軍開府儀同三司吳平忠侯蕭
公之神道梁安成王蕭秀墓石柱一及神道碑二題
云梁故散騎常侍司空安成康王之神道梁臨川王
蕭宏墓石柱碑二題云梁故史黃鉞侍中大將軍揚
州牧臨川靖惠王之神道梁建安侯蕭正立墓有石
柱二題云梁故侍中左衛將軍建安敏侯之神道
鄴道元水經注曰譙城南有曹嵩冢冢北有碑碑北
有廟廟北有二石闕闕北圭碑題云漢故中常侍長
樂太僕特進費亭侯曹君之碑延熹三年立獲嘉縣
西有漢柱陽太守趙越墓冢北有碑碑東文有一碑
碑北有石柱石牛羊虎翁碑論毀莫記過水南有譙
定王司馬士會冢冢前有碑晉永嘉三年立碑南二
石許步有兩石柱高丈餘石牓云晉故使持節散騎
常侍都督揚州江州諸軍事安東大將軍譙定王河
內溫司馬公墓之神道

寅按以上諸書神道碑不止于一也石柱亦同

黃宗羲金石要例曰地理家以東南爲神道蘇瓊碑
建于塋北一十五里亦曰神道碑

寅按神道碑蓋標其冢所在耳其在南在北從其

使也

諸碑墓表石例曰二品以上神道碑立墓隧道之左
南面立螭首龜趺各依品從合得尺寸
然節度文體則韓曰堪輿家以東南為神道碑立其
地故以名焉墓碑制龜趺螭首五品以上官用之而
近世高低廣狹各有等差則制之密也
金石要例曰柳州葬令曰凡五品以上為碑龜趺螭
首降五品為碣方趺圓首此碑碣之分是凡言碑者
即神道碑也後世則碣亦謂之碑矣豈以神道二字
重于墓乎

寅賓於浦曰某家觀清人李潛菴碑說與此二說
差異新井君美因擅浦譯官高尾甚八問碑式於清人清人李碩菴自錄其說以復之碩菴者頗詳論之甚八乃令潛菴簡識在浦曰氏其後未見手簡其說如左
墓上石碑有四其一名曰墓誌銘圓只有尺餘內
刻本人家世及出處行實并其子女婚配山地方
面廣闊此碑係埋在墓中其一名墓碑高四尺闊
約二尺五六寸正中刻某官某公之墓其左鐫年
月其右鐫其子之名此則鑲在墓門左其一名曰
碑記或高丈餘闊三尺餘或有欽賜祭葬別立一
亭在山之正中內刻御祭文字于其上或是同官

（齋菴以誌石爲碑之一按點師正傳爲鐫之古華人發古冢得碑有刻字云云蓋墳誌也釋名鉤鑲而頭曰鉤中央曰鑲或椎鑲或鉤引此直刃爲鑲俗語因轉爲直立之狀也）

暨親友稱功頌德之文其碑可于左別詮等蓋之其一曰神道碑高淵與碑記之碑畧相似內刻某號某公神道碑數字于其正中其碑竪在本山之下麓山之制如此碑之狀或只有淵三四尺厚不過二尺爲度發無方碑之款且碑上文字亦無四科款謂條而皆書之體不特文字不聯續使觀者旋轉之煩而失其次序乎唯高明裁之三山晚生李齋菴具

寅按神道古或用石柱止標識其冢所在也齋菴說乃與古合後世神道碑無不有文詞即齋菴所謂碑記也寅嘗觀黃碑陵元之墓墳上立石書曰壽藏其東南數十步有碑記要凡諸書所言不出一軌方能爲圖舟盤時故當對那其宜焉

金石要例曰婦人妃主亦稱神道碑如張說和麗妃息國長公主李華東光縣主楊綰鄭汾陽夫人是也

（此段及神道の條〻全文を写す以下〻鈔出す）

誌

馮鑑續事始曰按西京雜記前漢杜子夏隨敘作文

其死命刻石埋於墓前墓表然因此始

按墓誌有二一納之壙中一立之墓道如柳宗元東
明先生墓誌曰乃自為誌而死明年冬月葬如其言
蓋子其等為碑以誌于墓之上

東齋書曰有司奉太明坯事太子妃玄宮中有石誌
墓碑墓銘不出禮典近宋元嘉中顏延之作王
球石誌亦乃無碑策拔以紀德自爾以來至公
以下歲共適用謂妃之重禮碑恒列既有表策
謂不須石誌然之

唐會要曰誌石唐制品官皆用冢制九品以下無之

漢誄子夏曰漢謝君墓表執文元和三年作

金石要例曰誄系納于壙中如柳州眞烈鴻誄之遺
別遠誄水諸后土誌銘系可謂之誄元翰部山為其
隨墓誌銘之其門人愈壽狀其言行俾后之誄
以誠其葬

恒夫按吳志凌統傳統卒孫權使張承為作銘誄
疑是刻于冢上者

又按文體明辨曰書木版者曰牘版文

碑

清書曰三品以上五碑螭首龜趺上高不過九尺
七品以上五碣高四尺圭首方趺若隱逸道素孝義
著聞雖無爵奏聽立碣

唐會要曰五品以上立碑七品以上立碣若準論語
素王義著閣雖不仕亦立碣宋制六品以上則立碑
八品以上則立碣
明集禮曰五品以上許用碑龜趺螭首六品以下許用碣
方趺圓首
大清律曰五品以上許用碑龜趺螭首六品以下許
用碣方趺圓首庶人止用墳誌
碣
封演見聞記曰碣亦碑之類也周禮凡金玉錫石揭
而璽之注云今時之書有形表德謂之揭漢書師
古注揭杙也椓杙於華處而書死者之姓名揭音揭
然則物有標榜皆謂之揭郭景純江賦云峨嵋為象
陽之揭玉篇作束別之標是也其字本從木後人以
石為碣因變為揭碣文云碣特立石也據此則從
木從石兩體皆通
案按周禮有死于道路者令理而置揭示以徽
文體明論曰按潘尼作潘黃門碣則碣之作自晉始
也唐碣制方趺圓首五品以下官用之而近世復有
高廣之等則其制益異古者碣之與碑本相通用後
世乃以官級之故而別其名其實無大異也

表

婁機漢隸字源曰謂者景君墓表元初五年五太齋州石麿碑不見文字東漢墓闕自路都尉始爲之則自景君始文章緣起之墓碑自晉始非也

文體明辨曰墓表自東漢始文體與碑碣同有官無官皆可用非若碑碣之有等級限制也以其樹于神道故又稱神道表外有阡表殯表靈表而其類也阡者墓道也殯者未葬之稱靈者始死之稱自靈而殯自殯而墓自墓而阡也近世用墓表故以墓表括之

恒文按仁濟文公家禮注曰晉宋間死者皆有神道碑蓋地理家以東南爲神道碑立其地故因以名墓碣近世五品以下所用文與碑同墓表則有官無官皆可用表立墓左誌銘埋地中此與徐伯魯說同

恒文按墓表爲文自景君始則是碑表雖異名其實一也金石例墓表引文公家禮并注爲圭首而黃宗羲謂墓表之製方趺圓首則是與碣同要之墓表之名不拘圓圭通而稱之也

先塋碑

讀禮通考錢謙益曰壽考古金石例至金元之間而始有先塋昭德之碑蓋倣唐人先廟之文而爲之者也用以紀追命表先德莫此爲宜然而讀其文往往多頌而寡志畧死而諛生君子譏焉

附 塔

文苑英華曰蘇頲故悼王石塔銘王即開元神武皇帝第九愛子也二歲而夭及用葬於萬安山之東南嶺壙唯五丈棺不下三寸壘石塔一丈於其上不彫不鑿

舊唐書曰蕭王詳德宗第五子也建中三年十月葬時年四歲詔如西域法議爲執送塔禮儀使到官司門郎中李召上言曰墳墓之義經典有常自古至今無聞異制爲執起塔始於大空名曰浮圖行之中華竊恐非禮

附 壽藏

後漢書樊準傳曰準建安六年卒先自爲壽藏圖季札子產嬰兒教尚四傷居賓位又自畫其像居主位皆爲贊頌注壽藏謂冢壙也稱壽者取其久遠之意

唐書姚勔傳曰自作壽藏於萬安山開元崇墓之旁

羣兆曰寂居兆墳曰復眞堂劉土爲牀曰化臺而刻
石告後世
寅按生墳曰壽藏塔曰壽塔黃霸孫元之墳立石書曰
壽藏天子稱壽陵三輔黃圖昭帝初作壽陵
白虎通曰天子墳三仞諸侯半之大夫八尺士四
又庶人無墳墓樹又有尊卑之別說文曰天子樹
松諸侯樹柏大夫樹榆士樹楊淮南說文同小異然孔子墓
樹以百數皆異樹以是考之墓樹非必有制也
水經注曰陘山之上鄭蔡仲冢西有子產之墓累石
爲方墳
高士奇天祿識餘曰凡葬無墳者謂之墓有墳者謂
之墟檀弓古者墓而不墳也邯鄲曹娥碑上墓起墳
蓋言上其平墓而爲高墳也後世以墳墓混爲一遂
疑其重複改爲立墓起墳非也
寅按墓謂平地也墳謂墓上土以爲標者也曲禮云
適墓不登墟墟高處之地即謂墳也冢大土也周
禮疏云庶人不封不樹故不言冢而曰墓楊子方
言平曰墓封曰冢高曰墳集韻墟音無冢地也要

之埋死者之地總謂之墓封土謂之墳墓之有封
樹者謂之冢有冢之地謂之墟也

碑例 序例 行狀 銘例

碑例 碑文 碑陰 碑側 碑額 碑題 碑題 碑題

曰作
曰著
曰撰文
曰製文
曰刻文
曰爲文
曰篆文
曰爲此頌
曰造此文
曰作此文
曰書或曰書丹
曰數寫

華岳廟碑 曹植作
其字勢所碑猶時行者
隋姚辯墓誌銘 虞世基撰文
梁茂碑
王師德造像記
書與男銘 薛稷爲文
漢紀信碑 盧藏用撰文
郁閣頌
後周華岳碑將軍萬紹于瑾造此文
蓋文達碑于志寧字處道作此文
隋姚辯墓誌銘 歐陽詢書丹 鄭康成碑 安平書丹
進法師塔銘 沙門智詵撰

曰自書
曰追書
曰下丹
曰書石
曰書此碑
曰書此頌
曰書人
曰書銘人
撰并書或曰并書
或曰及書
金石例曰書碑額
云篆額

王仁求碑 王善寶自書
御史臺精舍碑 梁昇卿追書
之至王廟碑 裴平下丹 王昶以書丹爲下丹 始見此
朝陽巖銘 夏侯孝禁銘
武挺碑
郁閣頌
三教道場文 書人任惟諫
馮善廣造圖銘 書銘人佛弟子姚琪
悲道安墓誌 敕聘撰并書
功德記 鄭光文文書
金石例眞字八分書謂之題額篆字則

恒主 姪篆題額或曰篆或曰題篆曰書碑額
例則一也
又姪 五石曰立曰建曰樹曰竪
又姪書刻字人自漢碑而然鄭衛碑而然
曰刻曰刊曰鐫曰鑴字人或曰石匠

墓碑考の考

右墓碑 今城北之[illegible]城北之[illegible]
[illegible]
[illegible]

丹にて書せし紙を貼して

（[illegible]碑と称せしかの道碑と称せしかの[illegible]碑の如くに神道碑と刻し紀念碑の如くに[illegible]）

墓碑の[illegible]碑文を書せし[illegible]の紙面に墨書せし石面を[illegible]

（[illegible]）

[illegible]碑文を書せし[illegible]の紙面に墨書せし石面を[illegible]

拍子琴屋の画巻

拍子琴の由来

昔古先年琴の音のおもしろきに
如何せんが拍子の似たるものなるべ
しと思ひ付てこれをせり

面白かりたるものなれば
ありてこれを
ありて

橋名山鐘銘と田鍬撃竜の銘

二月橋名山の鐘銘

二野国橋名山鐘之事 永五年 改元二月 大勧進 僧栄四
二野国車馬郡満行 橋 鍬撃 鍬撃竜 あり 鍬
二 拍子 霊 前元 寿 三年

繪馬に就て

繪馬 鍬 望しるのもの 是の事

海老の画 成田 粉煙 常州 河内

五月環 白蛇 粉煙 古川 下総中山 法華経 牧 金 雷神 社 八幡

乳出す女 陽 中山 法華経 牧 神 社

猫 鼠 魚 知歌山 鶴 石 赤 鯖

芝山 鶴 大坂 唐 湾 見 四 社

[illegible]
牛　大坂牛の事　江戸東倉牛新吉　考異
馬　足　考異
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

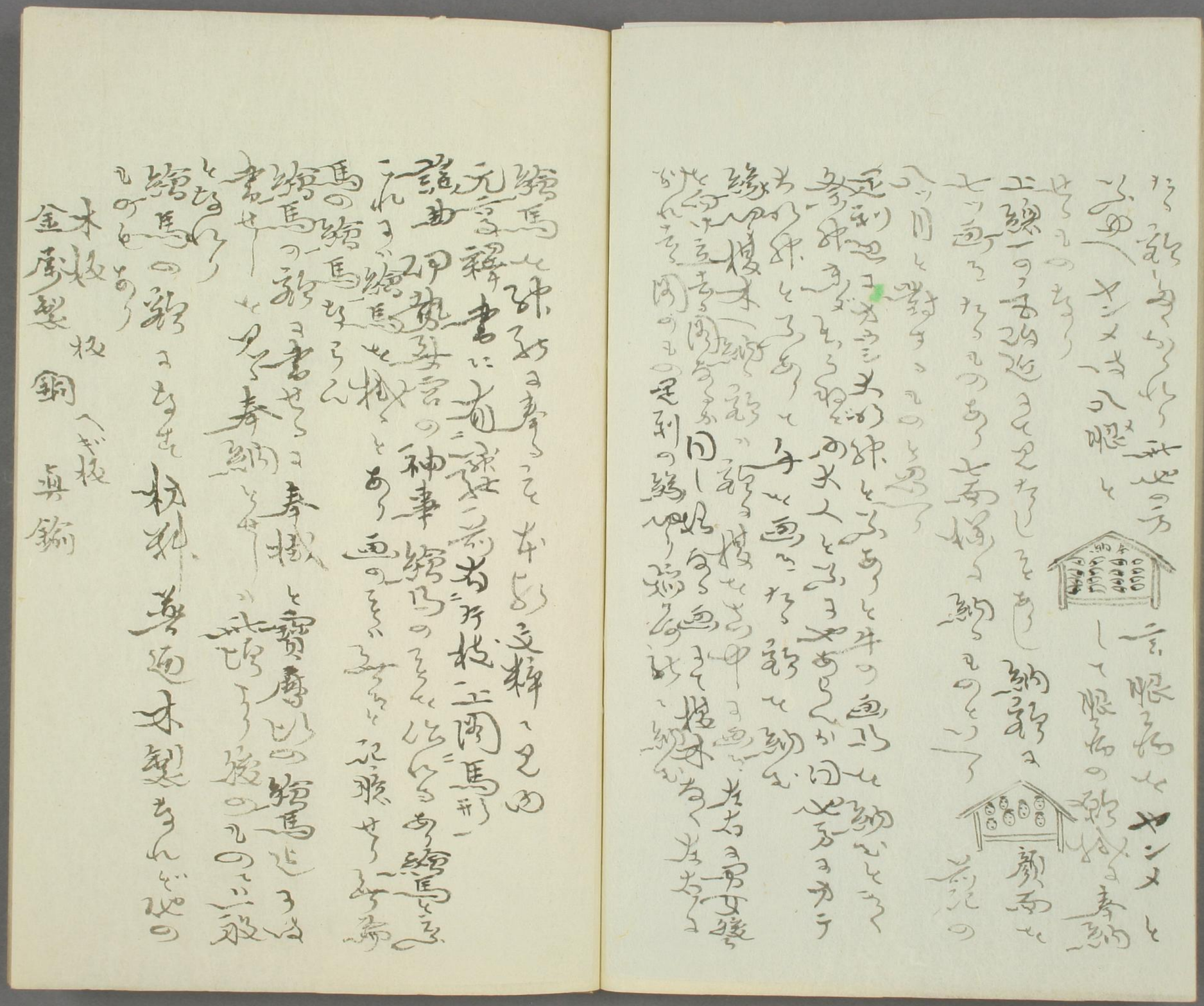
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



木枠
金彫製　枠
銅　へぎ板
真鍮

石形刻
陶器
瓷器

右二の細かなるもの
西京希有あり
ボールド一枚（画ありたるもの）紙きれきれて表の土佐國高岡の産なり土器枡場
せるもの土佐國高岡の産なり
左官目鏝形として
繪馬の形　華面
鏡形　矩形　楕円形　角　圓形
鏡つぎ有るもあり
鏡の足長さ鏡の枝と長さあり枝と同じ
鏡金具　華面のもの　火形の鏡　金具あるもの多し
以上繪馬
文略せり

牛巴高城下の古墳出土の品
ゆゆしきに悪魔の如き豪神
仏しかも其別除書
其同君皇太子の物
（給東京社）
柄金物唐目天鏡
（全定出品山）
鞘螺鈿
（ヲ付手等遠流風堂）
石帶
（金堂中）
（ヲ付手等遠流風堂）
（ヲ付手等遠流風堂）
（ヲ付手等遠流風堂

南井孝太郎の投げ迦考

[illegible]が持[illegible]特[illegible]

南井孝太郎氏の投げ迦の木の考に投げ迦は[illegible]天[illegible]天石屋戸の傳[illegible]ある

投げ迦は[illegible]でホヲカと發音し[illegible]

の一種今時ウハミヅザクラと[illegible]する植物に相當するものし

と[illegible]コトカとの相違せるのみ[illegible]

[illegible]の微[illegible]の[illegible]に[illegible]ちごと[illegible]木[illegible]

[illegible]の微[illegible]の[illegible]言相違[illegible]

よむと例とす 例[illegible]「[illegible]」[illegible]

「ひ[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]

「[illegible]」[illegible]

一稗してホシゴウザクラ（同上）二稗してコゴウザクラとす（同上）コゴノキ

とちがコモノキとなり[illegible]のこと[illegible]

イヌザクラコ[illegible]二種あり[illegible]

紀[illegible]ホウカと[illegible]メヒロぐ[illegible]名[illegible]ボリ名[illegible]別種

投げ迦の考

ハハカの火[illegible]言[illegible]野名元文[illegible]

[illegible]ミヅメ[illegible]ミヅメ[illegible]

[illegible]神[illegible]

[illegible]庭[illegible]

[illegible]井[illegible]新[illegible]依新[illegible]

[illegible]井[illegible]

（同[illegible]井[illegible]二年二月[illegible]刊行[illegible]）

[illegible]馬の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中原文之屋の
御書

[illegible]

共古日録　十八

[illegible]